

平成28年度 青谷地域振興会議  
委員提案管理表

開催日等	平成28年5月27日 第2回青谷地域振興会議
提案委員	瀧 洋子
提案内容	グループホーム（共同生活援助事業）の設立について
具体的な内容	<p>青谷地域でも障がいのある人のグループホームの設置要望が多くなっている。他市の施設に体験入居している方もある。設置に向けて空き家を改修してはどうかと考えているが、土地の問題があり進んでいない。</p> <p>今後は地域の理解が必要となる。設置できれば、青谷地域は福祉の充実したまちになっていくと思っている。身近に施設があると家族も安心して暮らせる。地域で応援していくことが必要だと考えている。</p>
意見	<p>・働く場の確保は進んでいくと思うが、親は将来のことが心配となっている。近くに施設が必要である。</p>
<b>以後の経過（随時）</b>	
<p>11/17経過報告：設置予定の場所の地盤が弱いため、申請が通るかどうかが不透明である。ストップ状態である。賃貸物件が対象であるので、駅前あたりに良い場所がないだろうか。</p>	
<p>29/8/31事務局：障がいのある方が日常生活上の相談援助等を受けながら、地域で安心して共同生活ができるグループホームは重要と認識しています。設立についての窓口は県であるため、随時、設立に関する情報提供・相談等に乗っていきたいと考えます。</p>	

平成28年度 青谷地域振興会議

委員提案管理表

開催日等	平成28年8月19日 第4回青谷地域振興会議
提案委員	上田 洋子
提案内容	福祉サービスから「地域づくり」を考える
具体的な内容	<p>青谷地区保健センター付近一帯を福祉ゾーンとし、様々な福祉サービスが連携し、各専門職や地域住民との顔の見える関係を築いていければと思います。青谷地区保健センターの利活用、人材確保等の課題があります。</p> <p>また、青谷地域外の勤務者にとって青谷は働くだけの場ではなく、青谷地域の職域間の交流の場となることも必要です。20代、30代の方も多く勤務しており、職域間のスポーツ大会やしゃんしゃん祭り等へ参加ができればと思っています。また、職場体験やボランティアを通し、小学校・中学校・高校を通じた人材育成の充実が必要です。</p>
意見	<p>意見：各専門職同志の連携とは</p> <p>回答：青谷地域の福祉施設が連携し、出張講座や研修会を開催するなど、進めていきたいと考えている。</p> <p>意見：「青谷町版総合戦略は、福祉関係をもっと厚くしてもよい」「保健センターには利用制限があるようだが、トレーニングスペースにするなどのことを考えてほしい」</p>
<b>以後の経過（随時）</b>	
10月28日に医療・福祉等の連携についての話し合いが初めて開催された。次回地域振興会議で経過報告を依頼した。職域間交流に繋がる期待がある。	
11/17会議で経過報告：西部地域の高齢者介護、医者等の親睦会が開催された。関係者約20名が参加した。今後はいろんな提案を働きかけていきたい。また、今回の地震で施設のエレベーターが止まった。改めて、地域の協力が必要、顔の見える体制づくりが必要だと感じた。	
29/8/31事務局：医療・福祉等関係者の連携については、今年4月にも研修会が開催されており、今後も引き続き西包括支援センターとも連携しながら進めていきます。また、青谷町版総合戦略へは「認知症高齢者等を支える地域づくり」の項目を追加し、実施主体に関係機関との連携を記載します。	

平成28年度 青谷地域振興会議

委員提案管理表

開催日等	平成28年10月17日 第5回青谷地域振興会議
提案委員	長谷川英二
提案内容	因州和紙の産地としての書道教育の推進ほか
具体的な内容	先日、広島県熊野町で開催された和紙のイベント「第19回文房四宝まつり」に参加した。書道に必要なもの（筆・墨・硯・紙）の産地が集まる祭りである。2年に1回開催され、2年後は鳥取市が会場となる。熊野町では小学校1年生（通常は3年生）から書道の授業がある。筆の産地ならではの取り組みである。今年になってから、ようこそ書道コンクールや因州和紙書初め大会が中止され、組合員の力不足を感じているところであるが、このイベントに参加し、「書道っていいな」と改めて思った。鳥取も紙の産地として、書道教育を特別な策をもって動き出してほしいと思っている。
意見	意見：青谷高校と因州和紙を結び付け、青谷高校に入学すると字が上手くなる、書道を習うことができる、など地域の特性を活かしてはどうか。 意見：鳥取市も特化した取り組みが必要である。教育する先生が少ないかもしれないが、やり方だと思う。 意見：学校で授業に取り入れることを検討してほしい。 意見：熊野町のビデオを見て思ったが、学校だけではなく地域での取り組みも大事である。
<b>以後の経過（随時）</b>	
29/8.31事務局：青谷小学校でも3年生から、授業で習字があるが、中学校になると授業でも部活動でも書道に接する機会はなくなるようです。小学校及び中学校での授業化は教育指導要綱上、難しいと考えられます。 青谷高校においては、2、3年次に青谷学として特色ある取り組みを行われており、今後「青谷高等学校活性化を支援する会」を立ち上げますので、その中で議論ができるかなと考えます。 また、長谷川さんが会長をされている、にぎわい創出事業実行委員会の和紙部会での検討も可能と考えます。	

平成28年度 青谷地域振興会議

委員提案管理表

開催日等	平成28年11月17日 第6回青谷地域振興会議
提案委員	松岡 礼子
提案内容	図書館
具体的な内容	<p>青谷図書室について、たくさんの人に利用してほしい、子どもも大人も本に親しむ環境を作ろう、との思いで提案した。</p> <p>小学校の頃、毎日のように（旧）青谷中央公民館の図書室に行っていた。その後、図書室は青谷町総合支所内に設置され、36,000冊もの蔵書があり、音読教室等のイベントも開催しているが、利用者が減少しているようである。入口がわかりにくい等の課題があるが、見やすい看板の設置等による図書室の存在のPR、学習コーナーの増設、保育園小中学校との連携を密にする等、身近な存在にすることが必要である。利用者を増やしていくことが、長い長い人づくり、町づくりに繋がると思う。</p>
意見	<p>意見：みなさんに知ってもらい、たくさん利用してほしいと思う。（月・祝日以外）平日、土日も19時まで開館している。</p> <p>鳥取市の図書館とオンラインでつながっているので、市内の他図書館の本も借りることが出来るようである。</p> <p>意見：蔵書36,000冊と充実しているが、狭い。ゆったりとしたスペースが必要である。借りるだけで、その場で読むスペースがない。</p> <p>回答：元々、青谷町役場当時の町民ホールであったため、様々な制限があります。</p> <p>意見：移動図書館もあり、図書室の利用が減ったのかもしれない。</p>
<p><b>以後の経過（随時）</b></p> <p>29/8/31事務局：入口看板につきましては、少し地味で目立たないかもしれませんが、よいご提案をいただければ検討したいと思います。</p>	

平成28年度 青谷地域振興会議

委員提案管理表

開催日等	平成29年1月19日 第7回青谷地域振興会議
提案委員	津本 和美
提案内容	農業関係
具体的な内容	<p>現在、青谷地域には380haの田があり、200haが稲作、180haが米以外（耕作放棄地を含む）を作っている。農地維持・保全のため、まず日置谷地区で取り組み、今後は青谷地域全体に広がればよいと思っている。担い手が耕作しやすい環境づくりが必要である。</p>
意見	<p>事務局：広域化すれば、計画的に活用できる有利な制度です。受益者が少ないため実施が困難な農道補修等も取り組みやすくなると思います。</p> <p>意見：現在、河原集落では中山間直接支払制度を活用しているが、以前はこの多面的機能支払交付金制度を実施したが、高齢化等で引き継ぐ者がいない。この事業には取り組みにくい。</p> <p>回答：山根地区に基盤整備実施の話が持ち上がっている。耕作放棄地にならないような対策をとれば実施は可能である。また、以前ほど事務処理の手間は少なくなっている。</p>
<p>以後の経過（随時）</p> <p>29/8/31事務局：多面的機能支払交付金事業（農地、農業用施設維持、保全）の日置谷地区での広域化は、4月より日置谷地区他7組織（既存組織4組織、新規組織3組織）の広域組織が発足し、活動を行っています。現在は広域化ではないですが、県営事業に取り組み、山根地区、五本松地区等に多面的事業や中山間直接支払事業の推進を行っているところです。</p>	

平成29年度 青谷地域振興会議

委員提案管理表

開催日時等	平成29年5月24日 第2回青谷地域振興会議
提案委員	山本 剛
提案内容	「認知症を支える地域づくり事業を青谷町全域で ～認知症の人も そうでない人も みんなが安心して暮らせる〇〇に～」
具体的な内容	<p>小地域において取り組みたい事例や取り組みを進めるための鳥取市の支援・施策について提案がありました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症への不安や偏見防止のための啓発活動・情報発信、及び、市民への 到達度合の検証</li> <li>2. 「がん検診」と同様、「認知症検診」の普及・制度化</li> <li>3. 小地域における取組みを進めるための事業実施計画の策定</li> </ol>
事務局回答	<p>鳥取市では、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を目指し、国が進める認知症施策に重点的に取り組んでいる。鳥取西地域包括支援センター職員が行う出前講座や、認知症キャラバン・メイトが行う「認知症サポーター養成講座」により、認知症を正しく理解していただくための啓発活動を推進している。認知症の人や介護されているご家族や専門職が気軽に参加できる場所づくりとして、「認知症カフェ」の開催を支援している。今後も、鳥取西地域包括支援センターとも協議しながら普及啓発に努める。</p>
以後の経過（随時）	
<p>7月26日開催の地域振興会議で進め方についての同意を得る</p> <p>【方針】 「認知症を支える地域づくり事業を青谷町全域で ～認知症の人も そうでない人も みんなが安心して暮らせる〇〇に～」</p> <p>【進め方】 総合支所と担当課である鳥取西地域包括支援センターが連携して行う。 認知症について地域で取り組むには、行政だけでは出来るものではなく、地域振興会議の委員さんをはじめ、地域のみなさんの協力も必要となる。今後、官民で力をあわせ、「認知症」を支える地域づくり事業を青谷町全体で推進する。</p>	
<p>29/8/31事務局：9月上旬に、医療・福祉等関係者との話し合いを計画しており、今後の方向性について協議します。また、青谷町版総合戦略へは「認知症高齢者等を支える地域づくり」の項目を追加し、今後は関係機関と協議しながら実践に努めます。</p>	

## Ⅲ 誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”

### ◆安心・安全なまちづくり

#### 4. 認知症高齢者等を支える地域づくり

施策	内容	目標	実施主体
認知症の早期発見・早期診断につなげるための支援	健康教育等での啓発及び相談支援	全集落への啓発	地域・行政
認知症予防・ケアに関する意識啓発	地域における健康教育や会議等での啓発活動	全集落への啓発	地域・行政(西包括支援センターや社協、その他医療福祉関連団体との連携)